

# 町経理ソフトの操作の利便性アップの試み

せたな町立若松小学校

教頭 佐々木 朗

## 1. はじめに

マクロ、VBAと言うと、パソコンにある程度は詳しいと思っていた自分にとってもチンプンカンプンの代物であった。その一方、私がコンピュータの道に入った時は、「プログラムは自分で開発するもの」という意識が多くのコンピュータユーザーにはあり、私もそのはしっくれとしてBASICを勉強した。BASICは、プログラム言語の中でも、比較的わかりやすい部類に入っており、多くのニューカマーはこのBASICから習い始めた時代であった。その頃は、まだ十代、頭の回転も今に比べるとずっとよく、すっかりプログラム作りにはまった大学生活であった。当時、私の所属していた教育心理学教室では、データの統計処理に電卓（一部は関数電卓というしゃれた物もあった）を使っていたが、私はそれをコンピュータ化したかった。簡単な平均、標準偏差の算出プログラムから始まり、T検定、カイ2乗検定、分散分析、回帰直線など、けっこう難しいものに対しても、手を伸ばしていった。プログラムを作成するのは時間がかかるが、データさえ入れると、ほぼ一瞬で計算してくれるのである。私の大学4年間はまさにプログラマーであった。

教職についてからも、当時まだほとんど学校にコンピュータが入っていなかった時代、新設校にパソコンがずらっと並んだ学校に勤め、そこで、教材開発をした。計算

ソフトで全国入賞も果たすなど、あの頃は若かった。

Windowsマシンになってからは、私が忙しくなったこともあり、プログラム開発から、パソコンメンテナンスに業務が移っていった。「パソコンが立ち上がらない。」から始まって、「プリンタにつながらない。」、「ウィルスにやられたみたい。」、「中古パソコンを紹介して。」、「学校の中のネットワークを組んでほしい。」などいろんな仕事 came。一つ一つの成功が私の技術の引き出しを増やすことになり、今では「何とかなるさ、(何とかするわ)」という自信めいたものが自分にできてきた。

さて、前置きが長くなったが、道立教育研究所で、教育ソフトの開発ということで、マクロについての講座があった。初心者コースと書いてあったので、行ってみることにした。ところが、これがなかなかややこしい。一年目は、ぼやーっと先が見えたか見えないかの感じ。それで次の年、もう一度チャレンジ。霧がだいぶ晴れた感じになった。もともとBASICをかじっていたので命令も身に覚えのあるものも多く、その後、何冊か本を買って勉強しているうちに、少しはいじれるようになった。

今回は夏休みの自由研究の一つとして、町経理ソフトの一部についてマクロを使って自動転記するシステムを作ってみた。

## 2. すばらしい出来映えの町経理ソフト

私自身、事務の仕事をするのはもちろん初めてである。会計だけはやりたくない業務として逃げてきた私であるが、町経理の仕事も私の業務になった。

最初は、わけがわからなかった。ましてプリンタの調子が悪くイライラもした。ところが、この町経理ソフト、実によくできている。必要などころがしっかり色づけされていて、他の所には余計な入力をして壊れないように、保護もかかっている。最初のうちは、私の前職の澤谷さんに聞いたり、委員会の小林さんに聞いたり、町内の事務の先生に聞いたり、聞きまくった。何回か言われた通りにやっているうちに、数の多い消耗品については、マスターした。使い方のさじ加減については、一年間やりながら体で覚えていこうと思っている。

### 3. 町経理ソフトの課題。

述べたように町経理ソフトは、かなりの役場のスペシャリストが作ったものらしく、

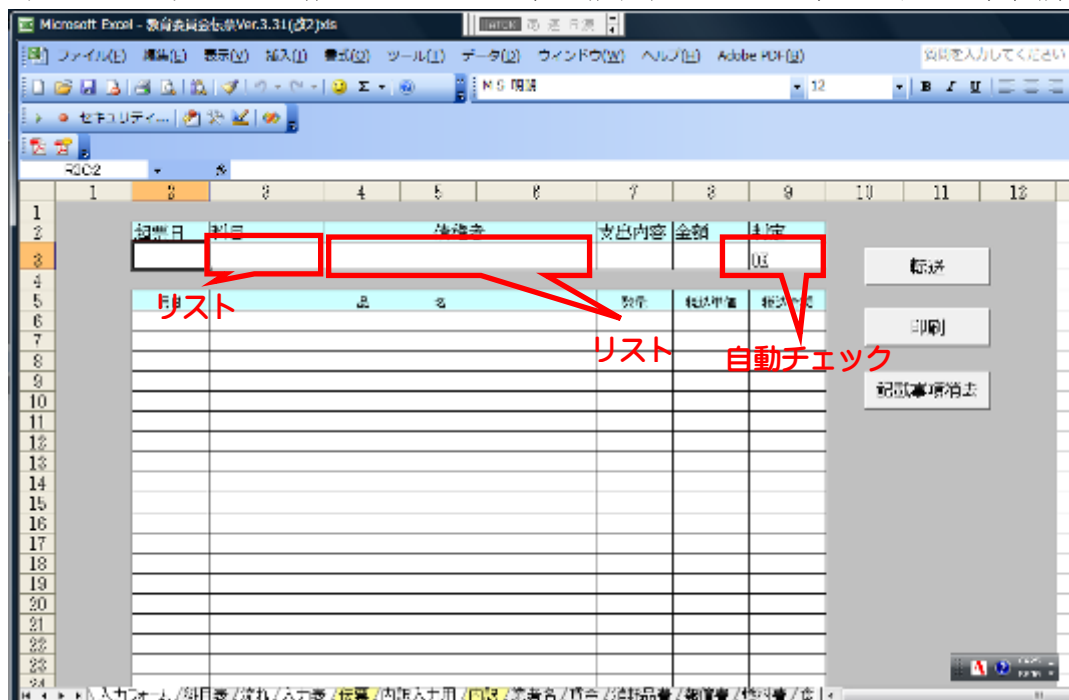
エラー処理など細かなところまでゆきとどいている完成品である。にもかかわらず、私もエクセルには、ちょっとうるさいっていう人。ちょっと生かじりのマクロを使って、改善してみることにした。

改善点として、①一枚のシートに入力することですむようにしたい。(今までは、入力表、伝票、内訳表の3カ所を開かなければならなかった。②項目ごとの内訳を別ファイルに手動で移していたが、それを自動化したい。③ワンタッチで伝票と内訳表4枚を印刷したい。④既存の関数はいじらないことを原則とする。というコンセプトで改善に取りかかった。

### 4. 改善のポイント

科目は、消耗品、印刷製本費、手数料など20項目があるが、リストから選ぶようにした。(今までも同じである)

債権者もリストから選ぶようにした。債権者名を決めると、入力表には、住所や、





## 5. マクロを構成している VBA について

私はまだ、VBA(visual basic for application)を語るまでのレベルではないが、興味のある方のために、一部を紹介する。

```
1 Sub 記載事項の転送0
2 Set フォーム = Worksheets("入力フォーム")
3 Set 入力表 = Worksheets("入力表")
4 縦 = 22
5 Do Until 入力表.Cells(縦, 6) = ""
6 縦 = 縦 + 1
7 Loop
8 入力表.Cells(縦, 3) = フォーム.Cells(3, 2)
9 入力表.Cells(縦, 6) = フォーム.Cells(3, 3)
10 入力表.Cells(縦, 8) = フォーム.Cells(3, 4)
11 入力表.Cells(縦, 12) = フォーム.Cells(3, 7)
12 入力表.Cells(縦, 13) = フォーム.Cells(3, 8)

1 はマクロの定義
2,3 は、シートの宣言
4 は、入力表の科目や業者名を入れる初期値。
5,6,7 は、6 行め (科目名) が空欄になるまで、縦を一つずつ増やしながらか (下へ下がりながら)、空欄を見つける。
8~12 で、起票日(3,2)、科目名(3,3)というようにデータを入力表の起票日(縦,3)、科目名(縦,3)に転記する、縦は、使っただけ1ずつ増えていく。
```

こんな感じである。BASIC の  $I=I+1$  や  $b=a+b$  など右辺を左辺に代入するという概念がわかる方は、比較的理解がしやすいか

もしれない。

## 6. 仕事の能率化とその手だての整理

このマクロの開発は、夏季休業の日の午後からぶっ通しで、夜までかかって行った。

かつて、渡島教育局長が講演の中で、「現状維持は、もはや後退である。」という話を聞いて、私は心にビビビと来た。平成 20 年を平成 21 年に変えて、そのまま仕事をする多くの物は通るかもしれない。でも、もっと自分がわかりやすく、相手もわかりやすく、しかも仕事の能率が向上するやり方はないだろうか考える自分でいたい。でもそのようなことを考えるには、時間が必要なことも事実である。新米教頭で、しかも事務職、学級担任もありという中で、このようなシステム開発は、時間の無駄という考えもあると思う。

そういうのも重々心に押さえながらも、自分は、コンピュータを専門とするもの一人として、学校や地域、そしてせたな町の教育の情報化に少しでも寄与していきたいという気持ちがあるのである。